

平成 27 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

## 平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ・質の高い文武両道の校風を推進するため、さらなる学習環境の充実と部活動の活性化を図り、知徳体の調和的発達を具現化する。
- ・開かれた学校づくり、より良い授業展開による生徒一人ひとりを大切にしたい学校づくりを推進する。
- ・我が国の立ち位置を正しく理解したグローバル人材を育成する。

### 学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.0	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の生活実態や学習状況等を把握し、習熟の程度に応じた指導による基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。</li> <li>・授業アンケートを実施し、授業改善に資する。</li> <li>・教育課程委員会等で、生徒の現状を踏まえたカリキュラムを検討する。</li> <li>・朝学で活字に慣れ、意欲を高める取組を行う。</li> <li>・学力向上事業で補習を行い、学力向上への取組を行う。</li> <li>・授業公開週間を設け、授業研究の風土作りを図る。</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒の障害特性等に配慮した指導を充実するため、情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に応じた効果的な対策を教科会や学年会で検討する。</li> <li>・学力向上事業を計画的に行う。</li> <li>・計画的な研究授業を行い、指導案の検証を行うことでよりよい授業の実施に向けて学校全体で取り組む。</li> <li>・アクティブラーニングを取り入れた授業を公開し、教科全体で研究し高大接続改革に対応していく。</li> <li>・部活動と補習の選択を生徒にさせることに対し課題が残る。</li> <li>・特別支援教育の研修を計画的に実施し、特別支援教育に対して知識と技術を身に付ける。</li> </ul>		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートを実施し、実態把握に努め、生徒一人ひとりをしっかり見つける指導の充実を図る。</li> <li>・今日的な人権課題に取り組み、人権に対する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に人権課題を解決しようとする意欲・態度を育成する。</li> <li>・カウンセリング委員会を定期的の実施し、生徒の情報を共有し、共通理解を図る。</li> <li>・教育活動全体を通してキャリア教育に取り組み、計画的に進路ガイダンスを実施することで、自己の将来を描き、学ぶことや働くことの意義・役割等を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の生徒観察力を高め、教員が生徒の変化の様子を見抜く力を身に付ける。</li> <li>・計画的な生徒指導に関する研修を積極的に行っていく。</li> <li>・年間計画の見直しや指導の改善を図るため、校内の推進体制を整える。</li> <li>・カウンセラーと連携し、生徒の日常生活における変化に気を配り、校内教育相談体制を更に充実させる。</li> <li>・大学、各種学校、就業、就労先の情報収集・新規開拓や特色の把握に努め、生徒・保護者への積極的な情報提供を行っていく。</li> <li>・課題を持った生徒の情報共有を図る。</li> </ul>		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</b>			
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会の定期的な開催により、家庭及び学校医等地域の専門家や関係機関との連携を密にする。</li> <li>・食に関する指導の目標や年間指導計画を作成し、教育活動全体を通じて取組を進める。</li> <li>・授業公開や「保健たより」による家庭への情報提供等、家庭と連携した取組を進める。</li> <li>・新体力テストの実施により、体力や運動能力の現状を把握させ、体力の向上を図る。</li> <li>・体力・運動能力の向上を目指し耐寒マラソンを行うことで運動習慣を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教職員が連携し、教育活動全体を通して取組を進めていく。また、家庭科において調理実習や食材の栽培などの体験活動を取り入れた指導を充実させる。</li> <li>・体育の授業や部活動などの体育活動においては、生徒の技能や体力に応じた指導を行い、適切な健康観察や休息の実施、定期的な施設用具の点検などを行う。さらに、安全の確保に細心の注意を払う。</li> </ul>		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b>			
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育等を通じて交通マナー指導を行い、登下校および校内での危険防止や事故の予防に万全を期すようにする。</li> <li>・校内施設の安全点検により、危険箇所の早期発見・早期修復を心がけ、安全で快適な学校生活ができる環境づくりに努める。</li> <li>・災害から自らの生命を守るため主体的に行動する力を育成するため、避難訓練や救命救急講習会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的自転車のマナーの向上は見られるが、車や単車の不注意での交通事故が増えている。車や単車の動きにも注意して交通安全のさらなる充実を図っていく。</li> <li>・「学校防災マニュアル」を踏まえ、災害防災マニュアルを不断に見直していく。</li> <li>・地域と連携した実践的な防災訓練を更に充実したものにしていく。</li> </ul>		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b>			
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		3.0	3.0
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開週間を設け積極的に授業を公開し相互に研究を深め、指導方法の工夫・改善を図る。</li> <li>・体育祭や文化祭を通して、保護者や地域の人々等に教育活動を公開し、学校の魅力、特色等に関する情報を発信する。</li> <li>・学年、部からの各便りの発行や、ホームページの更新により家庭、地域との連携を一層推進するための新しい情報を積極的に提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業だけでなく研究授業に各教科が取り組んでいく。特に採用5年未満の教諭の授業力向上に役立てる。さらに、今後アクティブラーニングを取り入れた授業研究を各教科で取り入れ、来たるべき高大接続改革に対応していくことが重要となる。</li> <li>・学校ホームページの更新を適宜行い、情報の公開・発信を積極的に行うために専門の技術を持ち、熱意のある人材を分掌として配置する。</li> </ul>		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.5
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議等の定例会議により、教職員間の情報の共有化を図る。</li> <li>生徒が相談しやすい環境の整備に向け、いじめ、体罰の根絶をめざし、特別支援教育の充実を図る。</li> <li>グローバル化に対応した教育を推進するため、国際交流の充実を図る。</li> <li>教職員一人一人の力を組織的にかつ機動的に生かしていく協働体制を確立させる。</li> <li>オープンハイスクールや学校行事、ホームページ等を通して、保護者や地域の人々に学校の魅力・特色に関する情報を発信する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標への理解及び達成へ向けた取組に個人差がある。</li> <li>日々の教育活動に、教育目標を反映させなければならない。</li> <li>修学旅行等の学校行事における国際交流を推進する。</li> </ul>	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.5
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の授業力向上のための公開授業の実施や新着任の研究授業の実施。</li> <li>初任者研修や10年経験者研修などの研修、他校の授業研究会に積極的に参加し、広い視野を養わせる。</li> <li>各学年・部のスムーズな連携と情報の共有を図るために、定例の校務運営委員会、職員会議、拡大部会、拡大学年会を実施する。</li> <li>学校経営方針を年度当初に職員会議で説明し、共通理解を得る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を活性化させ、研究協議の時間を持つことにより、授業力の向上を図っていく。</li> <li>他校視察の情報の共有を効果的に実施する。</li> <li>高大接続において定義されている新しい学力観への意識改革を図る。</li> </ul>	

## 学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい  
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる  
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>★教職員の取組については、補習や授業方法の工夫など一定の評価はできるが、各生徒の個々の目標をもっと明確にし、具体的な取組を実践できるようにし、全体がレベルアップできるよう取り組んで欲しい。 ★生徒への授業アンケートの実施や授業公開週間の実施等授業方法の改善のための積極的な姿勢が見え、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせる取組が期待出来る。 ★取組と成果がしっかり押えられ、課題と改善策も十分に検討されている。来年度から障害者差別解消法が施行されるが、その対応を十分にしてもらいたい。 ★授業研究を個からチーム、教科、全体へと進めていくという課題に大いに期待したいと思う。又、授業アンケートから13の予習や復習を行っている%がとても低く、これは部活のウェイトが大きいいためなのか？予習復習が少なくて学力が身につくのか疑問に思う。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>★心の教育やキャリア教育によく取り組まれているのは理解できたが、一部の教員で生徒理解にかけている人が見受けられた。その部分の改善を期待する。 ★保護者、生徒がマナー意識が高いと思うとアンケートに表されているのは、先生方の取組が生徒達に反映されているのだと思う。 ★個々の生徒への関わりにきめ細かさがかえ、基本的な生活習慣の確立に効果をあげているように思える。生徒達が規範意識・マナーの高さを自覚し、自信につながりつつあるように思える。</p>	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>★教育活動全体を通して、生徒の健康な身体づくりに取り組まれていることは大いに評価できる。各月の保健だよりでも生徒・家庭への正確な情報提供が効果的である。 ★食育や体育の充実が図られているのはよく理解できた。部活動に対する不満や改良意見が多く見られた。今後この部分の改善が図られるのを期待する。 ★部活動についての教職員のコミュニケーションを活発化し、学校としてより発展できるような「部活動の指針」を一体感を持って内部醸成させる取組を期待する。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>★交通マナー指導、避難訓練、救命救急講習会の取組をされており、マナー向上・命への大切さを生徒達に教へておられるのはとても評価できる。 ★日々先生方が努力されているのを理解した。朝自転車でスピードを出して通学する生徒を見ることがある。交通事故に気をつけてもらいたいと思う。また、交通事故を起こさないようにと祈って見ている。 ★生徒の安全に対する取組が具体的で、その成果が自転車のマナー向上にもつながっていると見える。</p>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>★家庭・地域へののいねいな情報提供により学校への信頼度の高まりがうかがえる。特に、保護者アンケートにおいて学校への信頼と期待の大きさが出ている。 ★地域の信頼を得ていると思われる。ただ、人事交流が少ないので、独善的にならず、常に新しい学校づくりに取り組んでもらえることを期待する。★教職員の資質向上と言うことで、採用5年未満の教諭の授業力向上に取り組まれているのは評価できる。教職員の資質向上が生徒達の教育や学習内容、人権と全てに通じていると思うので積極的に、又問題のあり？の教職員の方にはお願いしたい。</p>	3
<p>■教育目標</p> <p>★体育科の教育目標を達成するために4つの具体的な指針が示されている。その1つが「体育・スポーツの指導者としての社会貢献ができる人材の育成を図る」であると思うが、社会に貢献できるリーダーシップの養成は大変な重要課題である。体育科の授業の中での取組はどのように展開されているのか。 ★全教員が教育目標を意識して、各教育活動に取り組んでおられると思うが、常に職員会議等の定例会での情報交換は必要である。 ★教育目標の実現がはかられているのかどうか、どの資料を見て判断して良いのかわからなかった。学校に足を運ぶ機会の少ない私には無理かもしれない。</p>	3
<p>■研究テーマ</p> <p>★教職員の転勤が少ないというメリットを利用すれば長期的な研究テーマに取り組めると思われる。是非そのような取組を行い、成果を発信してもらいたい。 ★具体的な研究テーマを決めての取組は評価できる。</p>	2
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B